

# 1. 次世代育成支援行動計画(後期計画)推進事業の実施状況一覧

<評価> ◎=できている ○=ほぼできている △=余りできていない ×=できていない

事業名	方向性	計画策定時の実績(H20年度)	実施状況(実績)					評価	決算額(千円)	問題点・対応等	所管課	
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H25年度において行った拡充、見直し・改善等の内容及び特記事項等					
<b>2章 子どもを取り巻く有害環境や問題解決への取り組み</b>												
<b>1節 課題を抱える子どもへの支援体制の整備</b>												
62101 スクールカウンセラーの活用	拡充	配置校数 小学校7校 中学校20校 配置時間 210時間/年	小学校8校 中学校20校 210時間/年	小学校8校 中学校20校 210時間/年	小学校8校 中学校20校 210時間/年	小学校10校 中学校20校 210時間/年	小学校への配置が2校増加した。	△	スクールカウンセラーの全小学校への配置には至っておらず、勤務日数と勤務時間も増加していない。	—	全小学校配置と勤務日数や勤務時間の増加を、国や県へ引き続き要望していくとともに、学校教育の中でスクールカウンセラーによる活動の更なる充実を図る。	学校保健安全課
62102 不登校児童支援事業	継続	—	—	—	—	—	—	○	実績としてはできていないが、学校とは連携できる体制があり、情報交換なども行っている。	— (児童館・児童センターを含む)	小中学校と連携を取りながら、進めていく。	子育て総合センター
62103 進路指導相談	継続	学校・事業所 訪問 延53回	延47回	延34回	延36回	延29回	市内公立中学校に一人ずつ配置している青少年進路指導員と2月に一度、情報交換会を開催した。	◎	継続して事業に取り組むことができている。	936	青少年の適切な進路指導は今後とも必要とされているため、高校や就職先の企業と連絡を密にして、卒業生に関する情報収集をこまめに行う予定である。	青少年補導課
62104 青少年相談	継続	相談件数 電話324件 来所31件	電話232件 来所50件	電話180件 来所6件	電話243件 来所8件	電話280件 来所10件	思春期の子どもへの対応に悩む母親の電話相談が多い。	◎	継続して事業に取り組むことができている。	8,625	青少年に関わる保護者の悩みは尽きず、相談窓口は今後とも必要である。様々な悩みに対して対応する相談員の力量が求められ	青少年補導課
62105 スクーリングサポート事業	継続	適応指導教室在籍児童生徒 学校復帰率 40.8%	教育相談 面接 350件 電話 232件	面接 307件 電話 213件	面接241件 電話185件	面接279件 電話277件	学校復帰を目指した、適応指導教室での支援のあり方・学校との連携の持ち方等を検討した。教育相談員の学校訪問による支援、わかば園との連携を進めた。	○	特に学校との連携を念頭に置いて適応指導教室での支援を行った。教育相談員による学校訪問において、学校・保護者・関係機関をつなぐ相談を進めることができた。わかば園との合同会議等で連携を進めた。	39,261	適応指導教室で学ぶ児童生徒のアセスメントを丁寧に行うことにより学校復帰率を高めることが必要である。教育相談については保護者や学校のニーズにあった教育相談のあり方を更に検討していきたい。	特別支援教育課
62106 不登校児童生徒学習支援事業	見直し・改善	居場所サポーター派遣校数 13校	5校 延80回 (在家庭学習支援システムを運用)	4校 延53回 (在家庭学習支援システムを運用)	9校 延183回 (在家庭学習支援システムを運用)	11校 延317回	各学校の居場所サポーターの要請に応えた。在家庭学習システムについて、活用促進に向けて周知を図った。	○	居場所サポーターの派遣については、学校からの要請にほぼ応えることができた。在家庭学習システムについてはより使いやすいシステムへの移行が必要である。	2,690	今後も増えるであろう居場所サポーター派遣の要請に応えるための予算措置が必要である。在家庭学習システムについてはより使いやすいタブレット等でも使用できるシステムへの移行が必要である。	特別支援教育課

# 1. 次世代育成支援行動計画(後期計画)推進事業の実施状況一覧

<評価> ◎=できている ○=ほぼできている △=余りできていない ×=できていない

事業名	方向性	計画策定時の実績(H20年度)	実施状況(実績)				H25年度において行った拡充、見直し・改善等の内容及び特記事項等	評価	決算額(千円)	問題点・対応等	所管課
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度					
<b>2節 有害環境対策の推進</b>											
62201 情報モラル教育の推進	継続	実施校数 64校	62校	62校	62校	62校	小中高等学校62校において、情報活用能力育成カリキュラムの確認、改善を図った。	◎ 前年度に引き続き、全校で取り組んでいる。	—	小学校教科書の採択にあわせ、情報活用能力育成カリキュラムの確認や、改善が必要である。	教育研修課
62202 風俗営業等の建築規制	継続	建築等の可否相談 31件	可否相談 28件 (旅館業等 審査会の開催、市長同意は無し)	可否相談 15件 旅館業等審査会2回 市長同意 1件	可否相談 15件 旅館業等審査会の開催 なし 市長同意 1件	可否相談 16件 旅館業等審査会の開催 なし 市長同意 なし	関係者から、問い合わせがあれば、正確に調査の上、迅速に回答する。	◎ 問い合わせには、迅速に回答している。	0	通学路、公園など年によっては変更になる条件にすばやく対応することが困難であるが、必要に応じて関係部署と連携しながら対応する。	環境学習都市推進課
62203 インターネット問題に関する研修支援事業	継続	(H21年度 新規事業)	1事業	0	1事業	2事業		△ 青少年のインターネットや携帯電話の使用方法が問題になっている中で、保護者への啓発が広がっていない。	47	小・中学校だけでは、研修の機会が限られるので、対象となる研修会の主催者を、幼稚園や地域団体に広げることで、保護者への研修機会の増加を図る。	青少年施策推進課
62204 「愛の一声」運動	継続	補導委員の活動回数 延8,526回	延8,642回	延8,389回	延8,309回	延8,029回	青少年に対する見方や声かけの方法について研修する機会を持った。	◎ 継続して事業に取り組むことができている。	7,382	補導委員が、社会のニーズに合致した研修を受講する中で、子どもに対する幅広い見方や効果的な声かけの方法等を身につける必要がある。	青少年補導課
62205 街頭補導活動【重点】	継続	補導車実働日数 延451日	延472日	延586日	延625日	延704日	巡回回数を増やすことにより、子どもたちの安全を見守る機会を増やした。	◎ 継続して事業に取り組むことができている。	15,311	補導活動については、青少年の現状に即して多方面からの情報を加味しながら今後とも青少年の健全育成・非行化防止に対応していかなければならない。	青少年補導課
62206 市民に対する啓発活動	継続	研修会等参加回数 18回	講演会6回 研修会・協議会等参加 13回	(講演会) 5回 (研修会等) 14回	(講演会) 7回 (研修会等) 14回	(講演会) 8回 (研修会等) 15回	最近の青少年の傾向を把握するため、警察関係者や青少年に関わる関係機関と連携し、情報収集に努めた。	◎ 継続して事業に取り組むことができている。	—	講演会の参加依頼は多く、ニーズはあるが、本業務との兼ね合いの難しさで全てに対応できないことがあるので、啓発冊子を市のホームページに掲載し、市民に啓発していく。	青少年補導課
62207 白ポスト(有害図書類回収)	継続	有害図書類回収数 2,954点	3,719点	3,871点	3,482点	4,371点	市民のニーズはあると判断している。今年度16箇所ある白ポストのうち1箇所を補修した。	◎ 継続して事業に取り組むことができている。	—	白ポストの老朽化に伴い、新しいものを購入したいが予算化が難しいので、少しずつ補修していく。	青少年補導課

# 1. 次世代育成支援行動計画(後期計画)推進事業の実施状況一覧

<評価> ◎=できている ○=ほぼできている △=余りできていない ×=できていない

事業名	方向性	計画策定時の実績(H20年度)	実施状況(実績)					H25年度において行った拡充、見直し・改善等の内容及び特記事項等	評価	決算額(千円)	問題点・対応等	所管課
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H25年度					
62208 地域環境実態調査	継続	調査対象 222店	217店	225店	221店	222店	市内各地区の補導委員や警察と共に気になる店舗を巡回している。	◎	継続して事業に取り組むことができている。	—	タバコやアルコールだけではなく、最近は脱法ハーブ等に関わる店の存在が浮かび上がっている。市内各地区の補導委員や県民局、警察との連携が不可欠である。	青少年補導課
<b>3章 子どもの安全の確保</b>												
<b>1節 子どもの交通安全の確保</b>												
63101 交通安全教育等の推進【重点】	継続	交通安全教室等実施回数 213回	190回	193回	185回	173回		○	学校・幼稚園・保育所や地域の実情に応じた交通安全教室や自転車安全教室が実施出来たため。	33,806	特になし	交通安全対策課
63102 通学路安全確保事業【重点】	継続	実施	実施	実施	実施	実施	学校、道路管理者、警察、PTA、地域関係機関・団体等と連携し、道路状況の改善、登下校時における交通規制等についての調整を行った。また、国・県からの通知に基づき、通学路の安全確保に向けた取組みを行うため、関係機関の連携体制を構築し、「西宮市通学路交通安全プログラム」を策定した。	◎	継続して取組みを行っている。また、平成24年度に緊急合同点検を行った190の全ての危険箇所について、対策メニューを作成し、順次対策を実施している。	8,083	道路構造に由来する改善要望には、即応できないものや実現困難な案件も多い。	学校改革課
<b>2節 子どもを犯罪等の被害から守るための取り組み</b>												
63201 防犯等の整備促進	継続	防犯灯設置数 新設270灯 取替505灯	新設212灯 取替971灯	新設155灯 取替725灯	新設:175灯 取替:609灯	新設:167灯 取替:630灯		◎	継続して防犯灯の整備が進んでいるため。	17,189	現行制度を継続して実施する。	地域活動支援課
63202 「安全マップ」の作成【重点】	継続	実施校数 42校	40校	40校	40校	40校	子どもが犯罪等に巻き込まれないようにするため、保護者や地域と連携を密にとり、安全マップの内容の充実を図っていく。	○	各学校により校区内の状況は異なるが、交通安全・防犯・防災等の観点から、安全マップの作成に取り組んでいる。	—	安全マップの必要性を周知し、通学路の再点検も含め、危険箇所の把握等、具体的な留意点を明示し、内容の更なる充実を図る。	学校保健安全課
63203 県警ホットラインの設置	継続	実施	実施	実施	実施	実施		◎		—		施設管理関係各課

# 1. 次世代育成支援行動計画(後期計画)推進事業の実施状況一覧

<評価> ◎=できている ○=ほぼできている △=余りできていない ×=できていない

事業名	方向性	計画策定時の実績 (H20年度)	実施状況(実績)					H25年度において行った拡充、 見直し・改善等の内容及び特記 事項等	評価		決算額 (千円)	問題点・対応等	所管課
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H25年度		H25年度	H25年度	行動計画の基本目標に沿って事業を推進する上での問題点		
63204 地域と学校の連携による 見守り	継続	実施校数 42校	「地区青少年愛護協議会の活動」 の中で実施 40校	「地区青少年愛護協議会の活動」 の中で実施 40校	「地区青少年愛護協議会の活動」 の中で実施 40校	「地区青少年愛護協議会の活動」 の中で実施 40校		◎	全地区で実施している。	— (「地区青少年愛護協議会の活動」 の中で実施)	地区青愛協で見守りパトロールを実施しているが、毎日登下校時に行っている地区もあり、人数の確保に工夫が必要である。	青少年育成課	
<b>3節 被害に遭った子どもへの支援体制の充実</b>													
63301 西宮こども家庭センターと の連携	継続	ケース検討 会議 63回	122回	99回	91回	120回	ケース検討会議の開催回数が前 年比で29件(32%)増加しました。	◎	例年通りケース検討会議 を開催しました。	—	今後とも必要に応じケース検討 会議を開催していきます。	児童・母 子支援課	

## 2. 平成25年度新規追加事業の事業内容

事業名	事業内容	方向性	方向性の内容及び目標事業量	担当課
<b>基本目標 2 母と子の健康を支えるまちづくり</b>				
<b>1章 子どもや母親の健康の確保</b>				
<b>1節 安心して妊娠・出産ができる環境づくり</b>				
21113 妊婦歯科検診	妊娠中は、むし歯や歯周病を発症しやすい状況となることから、妊婦への歯周病等の早期発見、予防および早期治療を促して口腔内の改善を図る。また、口腔衛生への意識高揚およびかかりつけ歯科医の必要性を促進する。	新規実施	歯科検診を受診することで、妊娠中に口腔内の管理ができ、母体の健康管理につながる。早産や低体重児出産の原因ともなりうる歯周病を予防し、出産のリスクの減少も目指す。	地域保健課
<b>2節 育児不安の解消や子どもと母親の健康確保</b>				
21219 10か月児健康診査	心身の成長、発達が急速に進む概ね10か月児を対象に、各種疾病の早期発見や適切な保健指導によって乳児の健やかな発達を促すとともに、生活習慣、虫歯の予防、栄養等の育児に関する相談を実施することによって育児支援を行う。	新規実施	新たに開院した小児科でも実施していただくことにより、市民がより利用しやすいようにしていく。	地域保健課
<b>基本目標 3 子育てと仕事の両立を支えるまちづくり</b>				
<b>2章 仕事と生活の調和の実現</b>				
<b>2節 子育て世代等への就労支援</b>				
32206 西宮若者サポートステーション事業(厚生労働省認定事業)	働くことについて不安や悩みを抱えている15歳から39歳の若者を対象に、専門的な知識を持つスタッフにより就労などの進路決定に向けた包括的支援を行う。	新規実施	サポステ事業において支援対象者の就職的自立を支援し、また市が実施する「若年者キャリア形成支援事業」(心理カウンセリング、セミナー、職場体験等の実施)により、サポステ事業の補完を行うことで、より効果的な就労支援を目指す。 目標事業量:進路決定者数	障害福祉課